



「岡玲子一周忌記念朗読会」

“風に鳴る碑” から “海に鳴る碑” へ 報告

岡玲子一周忌記念朗読会

“風に鳴る碑”から“海に鳴る碑”へ

—彫刻家・向井良吉との交流にふれて—

文学碑“風に鳴る碑”から“人間の運命”という芹沢文学における“大伽藍”の正門にあたる“海に鳴る碑”へと受け継がれたもの。また、文学碑“孤絶の碑”への変遷。

「プログラム」

【開演】(14:00)

『岡寿里 “ビデオレター”』

『山中一徳 “風に鳴る碑”朗読』

『勝呂奏 “風に鳴る碑から海に鳴る碑へ”講演』

『野見山恵美子 “向井良吉彫刻作品・書簡の紹介”』

『山中一徳 “ふるさとと文学碑”朗読』

【休憩 (20分)】

『講演者・朗読者・参加者の交流会』

(司会 池田三省)

【閉会】(16:00)

※令和4年6月4日 サロン・マグノリア



” 岡玲子さんの一周忌 《マグノリアの会》 ”

代表理事 勝呂 奏

昨年の6月6日、芹沢光治良記念文化財団を設立し、代表理事として運営の先頭に立っていた岡玲子さんが急逝された。享年の82歳は、長寿社会の今日において余りに早過ぎると惜しまれる。その玲子さんの一周忌を記念して、6月4日に財団主催の《マグノリアの会》で朗読会を持った。それは「“風に鳴る碑 (いしぶみ)” から “海に鳴る碑 (ひ)” へ—彫刻家・向井良吉との交流にふれて—」と題したもので、生前の玲子さんが企画を温めていたものだった。庭には光治良の対話した泰山木が白い大輪の花を開き、その眺めの中で玲子さんは逝かれたのかと偲ばれた。

朗読会は事務局長の池田三省さんの司会で、玲子さんのお嬢さんで理事の岡寿里さんのアメリカからのビデオ・メッセージによって開会した。朗読会のタイトルは説明するまでもないだろうが、“風に鳴る碑 (いしぶみ)” は1963年に沼津市我入道の牛臥の浜辺に建てられた光治良の文学碑の名前である。いや、正確に言うなら、行動美術協会の彫刻家である向井良吉の作品のことである。一方の“海に鳴る碑 (ひ)” は、光治良が大河小説『人間の運命』の正門として1974年に発表した小説名である。向井がこの彫刻に託した考え、それを受け止めた光治良に思いを馳せるというのが、この朗読会の狙うところで、それを勝呂が話した。朗読は《マグノリアの会》ではお馴染みの山中一徳さんをお願いして「ふるさとと文学碑」から、制作の経緯と光治良の思いを紹介して貰った。そして、学芸員の野見山恵美子さんからの彫刻家向井良吉の解説の後、向井から光治良へ宛てた数通の手紙の朗読を聴いた。それは文範にしたいような、深い敬意に満ちたものだった。

会場にいつもあるグランドピアノは、玲子さんという最良の弾き手を失い、長い沈黙を続けている。その上に色鮮やかな花籠と一緒に遺影が飾られていたが、その優しい微笑はこの日の集まりを喜ぶものに違いなかった。財団はこれからも玲子さんの遺志を受けて、芹沢光治良の文学を広め、その精神の継承に努めたいと考えている。《マグノリアの会》に集う皆様に感謝し、いつまでも変わらない暖かなご支援をお願いしたい。

“一年を振り返って” 岡寿里 様



早くも母がこの世を去り一年の月日が経ちました。大変でしたが、数え切れないほどありがたい事もありました。簡単にまとめると三つに分けられます。

まずは母のきめ細かく几帳面な性格です。生前と変わらず私になるべく困らないよう整えていく事に感謝しています。二つ目は幅広い方の助けです。特に最初の悲しみ、不安、そして戸惑いを乗り切ることが出来たのは母が親しくされていた方、親戚、親友、上司、そして同僚のお陰です。三つ目は祖父の芹沢光治良の文学です。母が亡くなり久しぶりに芹沢光治良の本を手に取りました。文学から得られるものは多く、後世の人達に読み継いで欲しいと母が思い切って芹沢光治良記念文化財団を立ち上げた気持ちがよく伝わって来ました。この財団の継続を可能とし、そして応援して下さい方に心からお礼を申し上げます。先月の6月4日、芹沢光治良記念文化財団主催の下で「風に鳴る碑、から「海に鳴る碑、」をテーマとした集まりは母が生前計画していましたが、コロナのため延期されていました。やっと一周忌を記念に朗読会が開催でき、母も喜んでいでしょう。これからも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

“朗読者” 山中 一徳 様



玲子さんの偲ぶ会に続き、今回、朗読をさせていただき、ありがとうございました。心から感謝いたします。そしてあまりの朗読の下手さに、反省しております。

今回は、玲子さんのピアノ演奏を録音されたテープからの選曲はすぐに決まりましたが、編集に時間をとられ苦労しました。それを裏付けるかのように、どなたかのピアノ演奏をバックに読んでも相応しくないんです。玲子さんじゃないと駄目なんです。できるなら、玲子さんのピアノの生演奏で朗読したい。何年間か、いろいろな作品を読ませていただきました。その度に、玲子さんといろんな話をして、打ち合わせをして、リハーサルをして、本番を迎えて参りました。

これは私の宝物です。玲子さんのピアノは、私の朗読のパワーです。芹沢先生の作品には深い愛があります。それを表現できるのは、玲子さんのピアノしかありません。

“参加者の感想” 不破 久温 様

「風に鳴る碑」が立つ場所は、沼津に住む私達にとっても、芹沢文学の拠所のひとつです。芹沢作品を読むと、度々我入道の景観や人々が印象に残ります。「碑」の背後、牛臥山の急峻な崖は海原の彼方の海底で出来た火山島で、地殻運動にのって200万年かけて移動し、伊豆半島に衝突しました。自然の大きさを感じます。

前川先生の「書斎」で、日本色彩文化史研究の計画を聴き感激した翌日、森次郎は我入道浜で(牛臥の崖を背に)西風にはだかつて「みんな聞いてくれ。おれは生きるぞ—どんなことがあっても、必ずやりとげるぞ…」(完全版『人間の運命』4巻)と叫びます。

「荒波のしぶきを浴びながら、自然の魂を叫ぶように、はるかな海の彼方に向かって、」(『このころの広場』)ひとり叫ぶ「碑」は、光と風と汐と砂と偶の囊にも、いまは寛容に起立しています。向井良吉氏がかたちにして造られた風に呼応する「碑」の「機能」は、静かな息遣いで、側に佇む私たちに、光治良先生が記念碑的文学作品に籠めた「いかに生きるか」についての言葉の数々を思い出させます。そんな思いを廻らす時間を「朗読会」のお蔭で頂戴致しました。有難うございました。

“参加者の感想” 牧野 勇 様

“天翔ける御霊を呼びて大平の

岡にうるはし小授鶏のこゑ “

平成三十年三月、光治良忌に参加させていただいた時に墓前で詠ませて戴いた歌です。その日、私たちに微笑みをもって接して下さった岡玲子様のお姿を今でも思い出します。さて今回、玲子様の一周年忌記念の会にて、勝呂先生、山中様、野見山様の貴重なお話を聞かせて頂きました。ありがとうございました。

(昭和三十八年建立、向井良吉氏作の碑)

“「風に鳴る碑」立てど声もなく

肌にしむる赤さびのいろ “

光治良先生は、碑が建った八年後、「海に鳴る碑」という文学作品を書かれました。「読者はわが子」と仰っていた先生からのお手紙である「芹沢文学」が、ころからも長く読み継がれていく事を願います。

“千本の松の原にもなごりして

海に鳴る碑そ永久の玉章 “

「中野区立中野東図書館 “芹沢光治良記念文庫” 紹介」

作家生活の多くをすごした東京都中野の近く、中野区立中野東図書館が2月に開館しました。図書館8階の特別展示室に、旧中野第三中学校から移転された“芹沢光治良記念文庫”があります。

沼津の“沼津市芹沢光治良記念館”と同様に、芹沢文学愛読者の聖地となるように多くの皆様が訪れる事を願っています。

●中野東図書館のホームページ

<https://library.city.tokyo-nakano.lg.jp/facility/serizawa.html#r01>

(住所:東京都中野区中央1-41-2 電話:03-5937-3559)



「芹沢光治良ノート（2）発行」

・「ノート(1)」は、芹沢作品の根っこである“ふるさと我入道”が描かれた「人間の運命・父と子」を紹介しています。今回、「ノート(2)」では、光治良先生が“魂のふるさと”と呼ぶ、パリを舞台にした『巴里に死す』を紹介しています。

多くの方に芹沢文学(「人間の運命」「巴里に死す」等)が読み継がれていきますよう周りの方にご紹介ください。(“芹沢光治良ノート”は財団HPからご覧になれます)



「2021年度活動報告」 “事務局より”

- 2021/4月 ・財団HPに「オーディオライブラリー」朗読を追加。
(「完全版人間の運命」・「巴里に死」・「エッセイ」)
- 6月 ・「岡玲子様 お別れ会」 (6/26)
・「芹沢光治良ノート(1)」発行
- 7月 ・「中野区教育長」表敬訪問 (7/16)
・「沼津市長」表敬訪問 (7/30)
- 10月 ・「作家 芹沢光治良の文学を語るつどい」
(かんだがわ編集委員会 主催) (10/12)
- 11月 ・「岡玲子 偲ぶ会」 (11/21)
・「財団ニュース④」発行 (11/30)
- 2022/2月 ・「中野区立 中野東図書館開館」 (2/1)
(“芹沢光治良記念文庫”開設)
- 3月 ・「光治良忌」 (3/12)
(沼津芹沢文学愛好会主催)

以上

●『今後の財団のイベント予定』

①第1回「巴里に死す」読書会

日時:8月28日 14:00 場所:サロン・マグノリア

②中野区主催「作家芹沢光治良紹介(仮)講演会」講演者 代表理事 勝呂奏

日時:10月15日(土) 14:00 場所:中野区立中野東図書館

③財団主催「講演会」講演予定者 沼津市芹沢光治良記念館 剣持直樹

日時:12月17日(土) 14:00

④第2回「巴里に死す」読書会(予定)

日時:2023年2月頃

※詳細については、随時、財団HPに掲載します。

ご都合がつけばご参加ください。

●『次回の財団ニュースの発行は、来年の2月頃を予定しています。』

※マグノリア会員に登録されていない周りの方に会員登録をお知らせください。

(会費無料です。財団ホームページより登録できます)



「我入道“風に鳴る碑”からの富士」



「読書会“巴里に死す”
巴里に思いを込めて…」

『編集後記』

今回は、“岡玲子様の一周年忌記念朗読会”中心の財団ニュースになりました。

玲子さんが財団を立ち上げられた頃、光治良先生の資料を整理してて、“風に鳴る碑”の彫刻家の「向井良吉」様から光治良先生宛へのお手紙を4通発見されました。

財団の作業をしていたとき、玲子さんが、この手紙を会員の皆様を紹介したいですね。と言われたことがありました。今回、代表理事の勝呂先生、朗読者の山中一徳様、学芸員の野見山さんの協力で開催することが出来ました。コロナ禍の中、32名の方がご参加くださいました。

光治良先生が、風化していく“風に鳴る碑”について語られた言葉が印象に残ります。

『長い歳月(20年)により風化にたえられず侘しく変わって、強風にも応えらなくなった。私の読者のあいだには、これを何処かへ移したらとか、新しい文学碑を建てたらとか、言うものが出たが、私は耳を貸さなかった。人間の造る物が、大自然の前でどんなにもろいか、象徴するようで、見る者に一種の教訓を垂れるからだか、また、これを建設した有志の友情や、これを機縁に、私自身の記念碑のような「人間の運命」をつくったことを想うと、将来永く、崩れる日まで残しておきたいからで…その後、私は帰省する度に必ずこの碑のそばに佇み、さまざまなことを考えたものだ』(文学碑 昭和57年)

岡玲子様の一周年忌を迎え、心新たに芹沢文学を語り伝えるために努めたいと思います。

発行： 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団

〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-3

事務局 池田 三省 メール：serizawa.52@nifty.com

財団ホームページ URL：<http://serizawa-kojiro.com>

※ご連絡：財団のメールアドレスが変更になりました。

変更前：serizawa52@nifty.com

変更後：serizawa.52@nifty.com (“.”追加)